

# 職人のスキルアップに最適 ラッピング競技大会に参加する意義

皆さん、世界各地で行われているラッピング競技大会をご存じでしょうか？この連載でも何度か取り上げてるので、ご存じの方も多いと思います。今回は、そんな競技大会の特徴に触れながら、審査の基準となる「客目線」とは何かを紹介するとともに、競技者として参加するメリットを挙げていきたいと思います。

**大会の勝ち抜きに必要な客目線の施工力**  
まずは、世界規模で開催している代表的な大会を挙げていきましょう。世界各地で開催され、名実ともに世界No.1のラッパーを決めるWorld Wrap Masters(WWM)、そして北米を代表する競技大会であり、即興デザイン力や貼りの技術を総合的に評価するWraps Olympics(WO)があります。この2つの大会は、本連載の第8回(看板経営Vol.10で既報)でも紹介していますね。WWMは1名、WOは2名1組で参加と、それぞれの特徴に違いがあります。

私がこれらの競技に初めて参加したのは、2015年。手前味噌な話になりますが、そこから経験を積み、2018年はWWM4位、2018年にWO優勝、そして2019年には、WO準優勝の成績を残しています。またこの実績が主催の方々に評価されて、近年はWWMの審査員にも呼ばれるようになりました。2019年には、私が会長を務める一般社団法人日本カーラッピング協会の主催する競技大会・WWM JAPANでも審査委員長をしています。

さて、このように競技する側と審査する側を両方経験てきて、私は言いたい点が3つほどあります。ひとつは「審査員の目は一般的な客目線よりも厳しい」、もうひとつは「大会は、今の実力



ラッピングした車両の審査をする筆者。たったひとつのシワや小さな気泡も見逃さない。近年は、オンラインを通して遠隔で審査を行うケースもある

を知る最も有効な方法」という点、最後は「大会で功績を残せば、必ず今後の仕事に役立つ」という点です。

まずひとつ目について、詳しく話していこうと思います。「審査員は客より厳しい」。何を当たり前の話を、と思う方もいるでしょう。しかし、これを分かつていかない参加者が多いのも事実です。例えば、大会で残念ながら予選落ちしてしまった人のなかには、「ただ早いだけの仕事をしても実際の仕事には関係ない」「根本的に俺のやり方と違う」といった風に、難癖を付けるケースも少なからず見受けられます。しかし、これは大きな間違いなのです。

## 己を知り、大会を勝ち抜けば仕事に困らず

次に、2つ目についてです。ここからは、大会に参加するメリットにも触れていきたいと思います。ものづくりの職人と言えば、クリエイティブな世界。自分の実力を客観的な視点で測る難しさは、サイン業界の人なら誰でも共感できると思います。競技大会は、それを正確に把握するひとつの手段となり得ます。

特に重要なのは、同じ施工をする職人がすぐ隣にいる点です。例えばWWMとWOではどちらも審査のメーンとなる要素は同様で、事前に用意された車両にリ出力した三次曲対応メディアをラッピングする部門と、主催者の用意したイスやヘルメットなどの立体物に、その場でラッピングする即興デザイン部門の2種類があります。さらにWOでは、レンガ壁面や床などへの貼り付けノウハウを評価される部門もあります。その上2021年からは、透明なペイントプロテクションフィルムの貼り

もしあなたが、客に全ての作業を見られながら施工を行う場合、胸を張って作業できるでしょうか？そのような緊張感が、競技会場にはあります。与えられた時間、環境、さまざまな人たちが注目するなかで、いつも通りの作業ができるかどうかを試されているからです。



2015年に、初めてWorld Wrap Mastersへ参加した筆者【写真①②】。そこから研鑽を積み、Wraps Olympics 2018の優勝をはじめとした数々の栄冠を手にしている【写真③】



施工も競技内容に加えられました。これらを全く同じフィルム、同じ条件下で行うのだから、実力差が如実に表れます。それだけでなく、例えば貼りの甘さや施工方法の違いなど、ひとりで仕事をしているだけだと絶対に気付けなかった自身の課題も知るきっかけになります。

現に私も初めて大会に参加した際は、自信を持って臨んだにもかかわらず、散々な結果でした。その時に初めて、客観的な自分の実力を知ったのです。しかしそれを糧にして研鑽を積み、翌年以降にリベンジしています。また、私の知っているだけでも、競技大会に出ている他のラッパーは皆、必ず次の年に一層技術を高め、一定の成績を収めています。

大会への参加が、着実なスキルアップにつながったと断言できるでしょう。仕事の質を上げるためにも、自分の実力を知る過程が重要なのです。

最後に、3つ目の話をしましょう。先ほどの難癖ではないですが、大会の結果はいわゆる自己満足で、仕事に関係ない、という方もなかなかいます。

しかし、そうではないと断言できます。現に、同じ大会に出場し、同様の条件下、同じ金額で勝った方と負けた方、どちらに

仕事を頼むかと言われたら、あなたはどうでしょうか。100%、勝った方に集まると思います。

このように、大会で得た勲章は、そのままクライアントに自身の技術を示す客観的な指標になります。加えて、本人の自信になり、職人同士の信頼に直結するのもポイントです。人脈が広がり、横のつながりで仕事も増加します。特に言葉の通じない海外だと、影響力は計り知れません。皆が知っている大会名と勲章を話すだけで、一足飛びに仲良くなれます。大会は技術だけでなく、人脈をつくる貴重な機会でもあるのです。

ここまで、大会で感じた3つの点について話してきました。大会に出る意味と、得られるメリットを感じもらえたでしょうか。もし興味が出てきたら、日本でもたびたび開催予定なので、ぜひ一度チャレンジしてみてください。参加前の疑問点や相談、心構えなどがあれば、いつでも私に連絡ください。精一杯フォローさせていただきます。

次号のテーマは、「なぜ今腕を磨かなければならぬのか」です。職人が正しい技術を学ぶ大切さについて、掘り下げてみたいと思います。

苅谷伊  
(かりや ただし)

1969年2月3日生まれ。  
89年大学中退後、父の看板業を手伝い始める。07年より、カーラッピング専門のPPF事業部を立ち上げ、車体装飾に注力。日本カーラッピング協会の会長も務める。18年、米・ロングビーチのWrap Olympics優勝など、数々のラッピングコンテストで活躍する傍ら、世界各地で車体装飾のデモンストレーションを実施。各国におけるサイン製作の現場も積極的に視察し、業界の発展に寄与する活動を続ける。



## 資格

- 職業訓練指導員 第10085号
- 屋外広告士 第7721号
- 1級技能士 広告美術仕上げ 第14-061-21-0001号
- 3M Preferred (US 3M本社認定インストーラー)
- 3M Knifeless 認定インストーラー US0017号
- AVERY DENNISON CWI 認定
- HEXIS CERTIFIDE INSTALLER GOLD 認定
- LLumar PPF JAPAN 認定講師
- TWI 認定トレーナー
- JAF 国際C級ライセンス

## 主な講師、デモンストレーション実績

- 2017年 中・杭州でラッピング講習会
- 中・上海でPPF講習会
- 日・SIGN&DISPLAY SHOWでセミナーなど
- 2018年 日・JAPAN SHOPでセミナーなど
- 馬・クアランプールでPPF講習会
- 露・モスクワでコンテスト審査員、PPF講師
- 米・ラスベガスのSEMAショーで実演
- 日・沖縄県広告美術協同組合で講習会
- 尼・スラバヤでのイベントでセミナーなど
- 露・モスクワでコンテスト審査員
- 日・SIGN&DISPLAY SHOWでセミナーなど
- 米・ラスベガスのSEMAショーで実演
- 日・名古屋モーターショーFESPA WORLD WRAP MASTERS JAPANでヘッドジャッジ
- 2020年 日・日本カーラッピング協会で講習会
- 2021年 日・青森県職業能力開発協会で講習会

## SNS

- フェイスブック (苅谷伊)
- Instagram @designlab\_inc.wrap\_japan
- Twitter @tadashikariya

## 株式会社デザインラボ PPF事業部

T 501-6023  
岐阜県各務原市川島小網町2150-24  
TEL/FAX: 0586-89-2332

●企業、団体、個人にかかわらず、カーラッピング、プロテクションフィルムなどについての技術講習会を受付中。小企業の海外展開(販売)の実例を交えた講演会、セミナーの問い合わせもデザインラボまで。